

2024 年 2 月 9 日

小林製薬株式会社 2023 年 12 月期第 4 四半期 決算説明会 質疑応答要旨

Q：2023 年度の広告宣伝費と販促費は想定よりも使わなかったのか？それでも営業利益が計画を少し上回る程度だったのはなぜか？他に想定よりも利益減になった要因があるのか？

A：中国大陸における ALPS 処理水の問題や、各国で熱さまシート・アンメルツが品薄だったことで、海外において広告宣伝費が想定より使えなかった。一方で、人材・研究開発への積極投資により金額が増えている。

Q：2024 年度の公表数値に Focus 社の売上・利益はどう織り込まれているのか？償却費が想定よりも膨らんでいると話があったが、その影響が大きいのは設備投資なのか Focus 社の影響なのか。

A：2024 年度に見込んでいる償却費増（19 億円）の中に Focus 社買収に伴う償却費も含まれている。Focus 社の売上は約 30 億円を織り込んでおり、利益については、のれん償却を含めると少しマイナスとなる。また、工場の設備投資に対する建築コストの費用増も想定している。

Q：Focus 社の償却費・償却期間はどれくらいなのか？

A：のれん償却については年 7 億円程度で、2020 年に買収した Alva 社の時よりは長い償却期間を想定している。

Q：2024 年度の国内売上は対前年＋46 億円（＋3.5％）の増収となっているが、内インバウンドの増収影響が＋21 億円なので、インバウンドを除く内需の伸び率は 2％前後の計算となり、弱くないか？

A：内需は、以前よりお伝えしているとおり、3％前後の成長率を目指しているが、ご指摘の通り、今期の公表数字としては 2％となっている。2％は最低ラインとして、広告費も十分に使っていくことでさらに上を目指していきたい。

Q：2023 年度の原材料値上がりの影響は、期初想定では 26 億円だったが、結果的には 18 億円で着地している。これはなぜか？

A：価格交渉の結果もあるが保守的に見ていた要因もある。

Q：他社では原材料値下がりやを想定されているところもあるが、小林製薬ではなぜ第 4 四半期も原材料値上がりが続いているのか？2024 年度も原材料値上がりの影響を 10 億円で想定されているが、原料安になっていく想定はないのか？

A：原材料値上がりの影響内訳は、石油・天然原料由来で約 6 割、カイロの鉄粉由来で約 2 割、その他 2 割となっている。第 4 四半期での値上がりの影響は、カイロの鉄粉の影響が大きい。

2024 年の原材料値上がりについては、すでに足元も値上げ要請が続いており、手堅く 10 億円と予想しているが、これを相殺すべく、引き続きコストダウンの実施も検討していく。

Q：御社の資本コストをどう見ているか？株価低下により、資本コストが上がっているように見える。その要因は何と分析されているのか？投資に対するリターンが市場の期待よりも低いということが問題かと思うが、どうお考えか？

A：株価が下がっていることについては、利益をきちんとあげていくことが重要と考えている。償却費が増えながらも、売上・利益ともにあげていくことで、市場に成長期待をもってもらい、株価上昇を期待している。

Q：増益へのこだわりが強すぎて、過少投資になっていることはないのか？

A：M&A や設備投資など、将来に向けた成長投資を積極的に行っており、過少投資になっていない。

Q：国際事業の第 4 四半期の業績は悪く見えるが、その要因を教えてください。

A：米国の暖冬によるカイロ減益の影響が大きいですが、3 年の移動平均で見ると米国のカイロは成長している。また、熱さまシートやアンメルツの供給不足もマイナス要因ではあるが、今後の工場稼働により、改善していけると考えている。第 4 四半期の業績が悪いのは一時的なもの。

以上

【注意事項】

本資料に記載されている内容は、説明会での質疑応答内容をそのまま書き起こしたのではなく、当社の見解により加筆・修正等を加えて要約したものであり、その情報の正確性・完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがございます。なお、業績見通しや将来予測に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な不確定要因により大きく異なることがある旨、ご了承ください。